

フェーズ1 ～基盤作り～



✓	Check ! (実施しているものにチェック)	参考
☐	園長・校長間及び担任間の関係作り	
☐	子どもの交流の実施	事例ア
☐	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有	ワーク1
☐	園や小学校での子どもの生活の流れや活動について共有 (相互参観等)	ワーク2～4 (参考資料) 校内研修の例
☐	<開発会議※1> 構成員の選定と目指す方向性の共有	
☐	<開発会議> 地域の実態の把握	
☐	架け橋プログラム（体制作り・架け橋カリキュラム作り）の 取組への理解と合意形成	手引き※2

※1…架け橋カリキュラムについて話し合うための会議

※2…文部科学省 HP「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」

★実施のポイント

○近隣の小学校等・幼児教育施設と、顔の見える関係を作り、つながる

まず、管理職同士で連携について合意形成を図るとスムーズです。

具体的な計画は、連携窓口となる方（小学校：保幼小接続コーディネーター等、幼児教育施設：園内リーダー等）、または市町村の幼児教育アドバイザー等に相談してみましょう。

○市町村全体で共通理解しながら取り組む

市町村が中心となり小学校区等の連携体制作りをサポートし、保幼小連携協議会や合同研修会、架け橋カリキュラムの開発会議等、話し合う場を設定すると、スムーズな連携につながりやすいです。保幼小で管轄課が異なる場合は、連携を図り実施しましょう。

○相互参観後に実施する「架け橋タイム」が効果的

保育者と小学校教員が、意見交換の場をもつことを本資料では「架け橋タイム」と呼んでいます。特に、相互参観後に行うことがおすすめです。実感を伴った相互理解は、その後のカリキュラム作成の基盤となります。

保育所
5歳児（5月）

子ども同士の交流から ～中休み時間に校庭で遊ぼう～

健康な心と体

社会生活との関わり

コロナ禍の影響で交流が一旦途絶え、保幼小接続を進めるための現在の自園と小学校はフェーズ1（段階）に該当している。そこで、子ども同士が自発的に関わる姿をきっかけに、生活の中に交流が日常化されるように、まずは小学校の中休み時間を活用し、自然な年長児と低学年との交流を図った。
【この時期のねらい】校庭で小学生と自由に遊び、小学校に親しみを覚える。

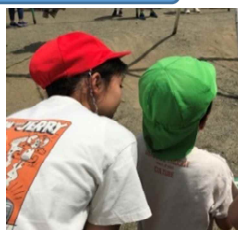
展開

興味・安心・挑戦



「高いけど、ここまで登れた！」
「すごい！私もまだそこまで進んだことないよ」（小学生）

自然な関わり



「あなたが1年生で入学する時には、私は6年生にいるよ」（小学生）
「そしたらまた一緒に遊べるね」



「ぼくが案内してあげる、おいで」（小学生）
「うん、行こう（手をつなぐ）」

期待・憧れ



「小学生たち教室に行っちゃったね…」
「今度は勉強しているところを見たいな」

環境の構成

○安心して活動できるように、事前に下見を含めて安全面や遊具の種類などを確認し、校庭での動きを予想しておく。

○一緒に体を動かして遊びながら、相手を思いやりたり頼ったりと、自然と関わりが生まれるような雰囲気をつくる。

○遊具の遊び方を小学生から幼児に分かりやすく伝えようとする様子を、相互が安心できるように温かく見守っていく。

○遊具に親しむだけでなく、校庭の飼育環境や植物環境、銅像や石碑などの文化的環境にも関心を抱けるように、保育者も一緒に、興味をもちながら親しむようにする。

○交流時間が終了してからも、子どもたちが満足感や余韻を味わえるように、時間に余裕をもって活動する。

先生の関わり

・子どもたちが安心して小学生と一緒に遊んだり挑戦したりできるように、職員の配置を考慮しつつ、安全面を見守る。

・子どもたちが様々な場で関わりをもちながら伸び伸びと行動できるように、相互の職員で配置を考え、援助していく。

・子どもたちが自然に交流することで、それぞれが自分の成長を自覚できる機会を探り、意欲的に関わる姿を丁寧に見取っていく。

・互いに自然な関わりがもてるように、保育者や教員は子どもたちの会話の内容に関心をもち、肯定的に見守りながら温かなまなざしを向ける。子ども同士のペースで遊びを選択できるように支えていく。

・楽しかった余韻を味わいながら、園に戻ってから活動を振り返り、次回に小学校を訪れることへ期待が膨らむようにする。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

中休み時間に交流を試みて「また小学校に来るね」「楽しかったよ」等と、小学生の親切さに安心したり就学への期待を抱いたりする姿が見られた。一度交流を図ったことで子どもも職員も顔が見える関係性になり、2学期も引き続き交流の場を設け、学びの連続性が期待できるようになった。

【小学校と共有するために】

保育者と小学校教員が顔馴染みになるには、まず小学校の保幼小接続コーディネーターや教頭に相談してみるとよい。双方が気軽に集まったり、フェーズ2（検討・開発）につながる意見交換の機会や相互参観を行ったりと、少しずつ交流を日常化し、年間計画に位置づけていく。

- ・ 幼児が自らの興味や関心に応じて環境に関わり、遊びに夢中になっている写真（具体的な姿）をもとに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について話し合う。
- ・ 保育者と小学校教員が同じ場面を見て話し合うことで、理解を深める。

準備

遊びの写真 10 枚程度、模造紙、ペン、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」一覧

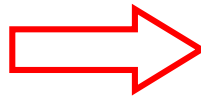
1. アイスブレイク (5 分)	○自己紹介 ○最近の子どもの姿で「すごいな」と感じたことを一言ずつ紹介する。
2. イメージの共有 (10 分)	○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、一覧を見ながら、保育者から説明する。（参考：「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料（初版）」p. 4、5） ○グループ協議の流れの説明をする。
3. グループ協議 (40 分)	○10 枚の中から 3 枚程度を選び話し合う。 ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどんな姿が捉えられるか。 ・ なぜそのように感じたのか。 ・ そのときの環境、道具や材料、友達、援助はどうだったか。 ・ これまでにどのような体験があったと考えられるか。 ・ 今後、さらに体験してほしいことは何か。 ・ この姿が小学校では、どのような場面に生かされと考えられるか。 
4. 振り返り (15 分)	○グループで話し合ったことを共有する。（ポスター発表やプレゼンテーションなど） ○感想を紹介する。 <感想> ・ 1 場面のなかに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をいくつも読み取ることができ、子どもの育ちの捉え方が理解できた。 ・ 写真をよく見ると、様々な情報が隠れていることに気づいた。 ・ 今度は実際の保育を参観したいと思った。 

<進め方のポイント>

- ・ 子どもの興味や関心、遊びの様子が見取れるような写真を選ぶようにする。
- ・ はじめて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知る参加者がいることも考えられるので、到達目標ではないことや、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより育まれる具体的な姿であることなどを共通理解できるようにする。
- ・ 写真の場面の正解を求めるのではなく、そこから様々な読み取りができることを促すようにする。
- ・ 園内や校内での研修、校区の研修等にも応用することもできる。
- ・ 動画（幼児期の遊びや活動の記録動画）を視聴し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに話し合う研修も、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有や理解に有効である。（動画例：「箱んでハイタワー」など：『映像で見る主体的な遊びで育つ子ども』エイデル研究所）
- ・ その際、ワークシート（映像資料を見て語り合おう）の活用などが考えられる。

「映像を見て語り合おう」

映像の中で見られる
「幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿」



小学校の学習や生活との
つながり

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）より：文部科学省HP

「幼稚園」の部分は、保育所保育指針では「保育所」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では「幼保連携型認定こども園」と記載。
「先生」の部分は、保育所保育指針では「保育士等」、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では「保育教諭等」と記載。

保育者と小学校教員
4月5月

視点をもって授業参観をしよう
～幼児教育と小学校教育の学びと育ちをつなぐための授業参観～

- ・ 保育者が授業参観をし、幼児教育が小学校教育の土台となっていることを確認する。
- ・ 視点をもって授業参観をすることで、架け橋期の子どもの学びや育ちのつながりを保育者が感じることができるようになる。
- ・ 協議をすることで、幼児期に育まれたことを踏まえた指導の工夫を小学校教員が行うことができるようになる。

準備

小学校のスタートカリキュラム・幼児教育施設の指導計画等、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の資料、参観メモ

1. 参観の説明 (10分)	○参観メモの使い方（幼児教育アドバイザー、指導主事等） ○今日の日程等の確認
2. 授業参観 (45分)	○参観メモをもとに1学年の学級の参観をする。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から、学びや育ちがどのようにつながっているのかを捉える。 気付きを促す支援は 幼児期の教育と一緒に 
3. 架け橋タイム (グループ協議) (15分)	○意見交換ができるような環境の設定をする。 ○行政職員または小学校教員が司会進行をしながら協議を進める。 ○保育者は参観メモをもとに、参観をしての気付きや、聞いてみたいこと等を小学校教員と協議をする。 やっぱり発達段階に 合った指導が大切 
4. 振り返り (10分)	○保育者、小学校教員が今後、学びや育ちをつなげるために、どのようなことをしていけば良いのかを参観者皆で共有していく。 <例> ・ 困り事や疑問を言葉で伝えられるような子を育てていきたい。 ・ 遊びからの学びも授業からの学びも「考える力」は大切だと感じた。 ・ 園で行っている一つ一つのことが、小学校教育の基礎になっていると、改めて思った。 ・ 幼児期の学びを生かした授業を行っていきたい。

<進め方のポイント>

- ・ 学びや育ちの理解をより深められるように、幼児教育とのつながりが顕著に現れる、1年生スタート時の4月、5月に実施をする。
- ・ 初めは、行政が中心となり、開催日程の共有や保幼小全ての職員の理解と協力を得られるようにし、フェーズが上がるごとに、中学校区や小学校区ごとに実施できるようにする。
- ・ 架け橋タイム（グループ協議）や振り返りでの成果を、架け橋カリキュラムの指導上の配慮事項に入れる。

小学校参観のメモ

参観者 _____

日付	参観校	参観学級	担任	科目
令和 年 月 日 ()	小学校	1 年 組		

【授業や生活の様子】

時間	児童の姿	教師の関わり

【協議・振り返り】

幼児教育とのつながりについて

保育者
(年間)

子どもの学びを捉えよう① ～園内で子どもの学びを共有する～

- ・遊びや生活を通しての学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「幼児教育において育みたい資質・能力」から考える。
- ・子どもの姿から学びを見取る視点をもったり、年齢や時期による遊びの変化から学びのつながりを考えたりする機会をもつことで、子どもの学びを説明できるようになる。

準備

本日の日案等（幼児の姿・環境構成・保育者の関わり）、付箋、模造紙、カラーペン
保育参観メモ（保育者用）、幼児教育において育みたい資質・能力の資料、ワークシート

1. 保育参観の説明 (5分)	○参観の視点について ・生活や遊びの一場面から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える。
保育参観 (30分～40分)	
2. 子どもの姿から、学びを捉える。 (10分)	○保育の振り返り ・保育の担当者より保育について本日のねらいをもとに振り返る。 ○参観した場面から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える。 ・参観時に見られた子どもの姿から、遊びや生活を通した学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から考える。 ○グループ協議の流れを確認する。
3. グループ協議 (20～30分)	○遊びや生活における子どもの姿に見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として捉えた学びを話し合う。 ・それぞれが捉えた子どもの姿を遊びのコーナーごとにまとめる。 ・他に捉えられる姿はないか話し合う。 ○子どもの姿から「幼児教育において育みたい資質・能力」を考える。(遊びのコーナーや生活場面を1つにしぼるの也可) ・子どもの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、育まれている資質・能力を考える。  できるだけ多くの子どもの姿を書く。 同じような姿はまとめる。  その日見られた子どもの姿によって、複数の資質・能力が重なったり、一つの資質・能力が多く見られたりすることもある。
4. 振り返り (10分)	○グループごとに、まとめたものを発表（代表でも可） ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から「幼児教育において育みたい資質・能力」につながる学び等について ○意見・感想 〈例〉 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から子どもの学びを捉えることで、一つの場面で様々な学びがあることを知った。同じ場面でも捉える学びは人によって違っていた。 ・子どもの姿から「幼児教育において育みたい資質・能力」の視点で学びを捉えようとすると、子どもの行動だけでなく心情なども考えることになった。

<進め方のポイント>

- ・参観で子どもの姿を多く書き留めることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の学びが見つけやすい。
- ・「幼児教育において育みたい資質・能力」については、初めて行う時には書き込める図のようなものを用意しておくとうわかりやすい。(ワークシート参照)

保育参観メモ(保育者)

参観者

令和 年 月 日() 歳児 組

【遊びの場面、環境構成・保育者の援助などから子どもの学びを見取る】

幼児の姿(環境構成・保育者の関わりなど)	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
	(1)健康な心と体 幼稚園※生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
	(2)自立心 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
	(3)協同性 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
	(4)道徳性・規範意識の芽生え 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
	(5)社会生活との関わり 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園※内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
	(6)思考力の芽生え 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
	(7)自然との関わり・生命尊重 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
	(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
	(9)言葉による伝え合い 先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
	(10)豊かな感性と表現 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※本資料は「幼稚園教育要領」をもとに作成しているが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は保育所や幼保連携型認定こども園も要領・指針に同様に記載されているため、「幼稚園」の部分は、「保育所」「幼保連携型認定こども園」にも読み替える。

保育者と小学校教員
(2～3学期)

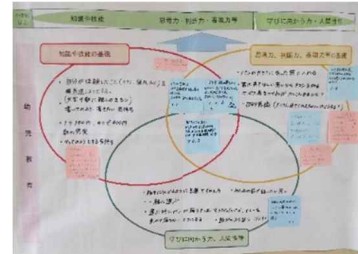
子どもの学びを捉えよう②
～保育参観をして遊びの中の学びを共有する～

- ・ 幼児期の遊びや生活を通しての学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「幼児教育において育みたい資質・能力」から考える。
- ・ 子どもの姿から学びを見取る視点を持ち、幼児教育と小学校教育の学びのつながりを考えるようになる。

準備

本日の日案等（幼児の姿・環境構成・保育者の関わり）付箋、模造紙、カラーペン
保育参観メモ（保育者と小学校教員用）、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の資料（ワーク1 参考資料等）、幼児教育において育みたい資質・能力の資料、ワークシート

1. 参観の説明 (5分)	○子どもの姿を捉える視点について ・ 生活や遊びの一場面から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える。
保育参観 (30分～40分)	
2. 子どもの姿から、学びを捉える。 (10～15分)	○幼児教育施設での生活や遊びの一場面から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える。 ・ 参観時に見られた子どもの姿を付箋に書き、遊びや生活を通した学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から見つける。 ○グループ協議の流れの説明をする。
3. 架け橋タイム (グループ協議) (20分)	○遊びや生活における子どもの姿に見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として捉えた学びを話し合う。 ・ それぞれが捉えた子どもの姿を遊びのコーナーごとにまとめる。 ・ 他に捉えられる姿はないか話し合う。 ○子どもの姿から「幼児教育において育みたい資質・能力」を考える。(遊びを1つにしばるのも可) ・ 子どもの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、育まれている資質・能力を考える。 ・ 保育者の学びの見取りと小学校教員の学びの見取りの相違点や共通点を出し合いながら、学びの姿について考える。
3. 振り返り (10分)	○グループごとに、まとめたものを発表（代表でも可） ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から「幼児教育において育みたい資質・能力」につながる学びについて ○意見・感想 〈例〉 ・ 夢中になって遊んでいる姿が学習への素地につながることがわかった。 ・ 子どもたちの遊んでいる姿を小学校の先生と見たことで、遊びから学んでいることを説明しやすかった。 ・ 小学校教員として幼稚園訪問は初めてだった。発想力の豊かさに驚いた。



<進め方のポイント>

- ・ 参観時に、遊びの経緯や遊びの中で育っていることなどを説明しながら小学校教員に伝えると、遊び中の学びの姿が理解しやすい。遊びについて説明できるようにしておく。
- ・ 遊びから捉える「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校教員に理解しやすいように、保育者が積極的に発言するとよい。
- ・ 成果が架け橋カリキュラムにつながるようにする。

保育参観メモ(保育者と小学校教員)

参観者

日付	参観施設	参観クラス	担任
令和 年 月 日()		5歳児 組	

【幼児の姿、環境構成、保育者の関わりなどから子どもの学びを見取る】

幼児の姿(環境構成・保育者の関わりなど)	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」※
	(1)健康な心と体 
	(2)自立心 
	(3)協同性 
	(4)道徳性・規範意識の芽生え
	(5)社会生活との関わり 
	(6)思考力の芽生え 
	(7)自然との関わり・生命尊重 
	(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
	(9)言葉による伝え合い 
	(10)豊かな感性と表現 

【協議の振り返り】

小学校教育とつながっていると感じたこと	これからの保育・教育に生かしたいこと

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、ワーク1の参考資料を参照のこと。

「幼児教育において育みたい資質・能力」ワークシート

小学校
以上

知識や技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力・人間性等

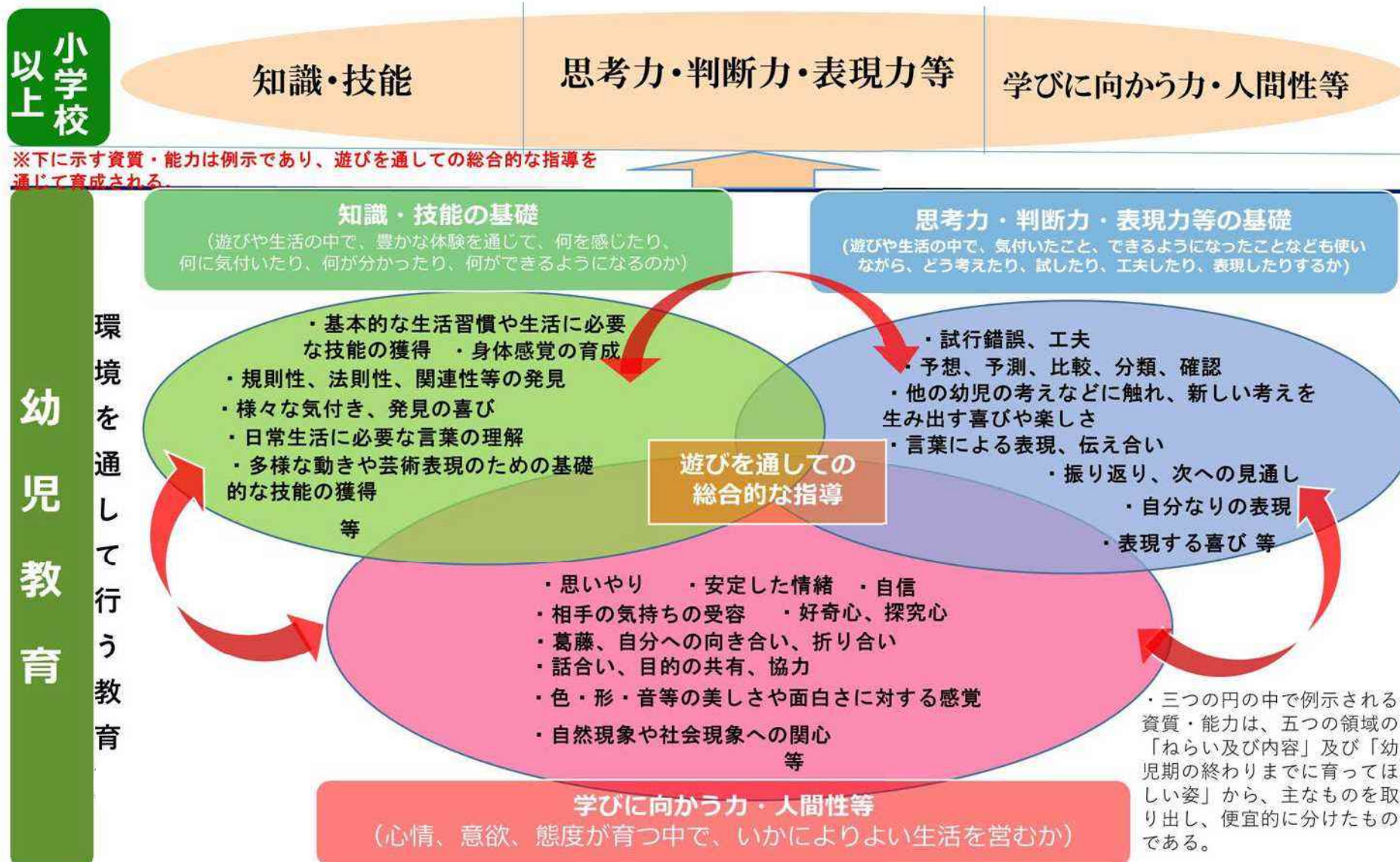
知識や技能の基礎

思考力、判断力、表現力等の基礎

学びに向かう力、人間性等

幼
児
教
育

幼児教育において育みたい資質・能力の整理



小学校 60 分

全職員で考える「こども園と 小学校の円滑な接続」 ーワールドカフェの手法を用いてー

課 題

- ・高学年担任が多い教員が、円滑な接続の必要性を十分に認識していない。
- ・保幼小接続カリキュラムのマンネリ化が見られるようになっている。
- ・全職員が具体的に課題をとらえるため、こども園や本校1学年の様子を撮影した動画を視聴する。

工 夫

- ・多くの職員の意見を引き出すため、ワールドカフェの手法を取り入れる。

参加者

- ・校長、教務主任（ファシリテーター）、教諭（20人）、計22人

ワールドカフェ 話合いの手法の一つ。メンバーを替え、オープンに会話を行い、新しいアイデアや知識を生み出すのが目的

★前日までの準備

- ・模造紙、カラーペン（各班）・付箋、研修要項 ・資料（掲示用）
- ・各園及び小学校の生活の様子を収録した動画 ・研修会場の準備

1 はじめに （5分）

- ① 研修のねらいや流れ、動画視聴の際の視点等を説明する。
※付箋に書きながら動画を視聴することを確認する。

POINT 研修が効率よく行えるように、事前に研修の要項を配付しておく。

R3. 7. 28

令和3年度 校内研修要項
こども園と小学校の円滑な接続プログラムの改善に向けた研修

〇〇市立 A 小学校

1. ねらい
職員が、幼児期の教育や保育の共通点や小学校教育との違い等について話し合い、気づきを共有することで、接続プログラムの改善につなげる。
2. 日程及び内容
(1) 日程 令和3年7月28日（水）10:00～11:00
(2) 内容
ビデオ視聴の視点
① 3園の共通点
② 園の活動や保育と小学校教育との相違点
③ その他
（新たな気づき・円滑に接続するために大切なこと等）
③ ワールドカフェで語ろう（14分）
ア やり方、テーマの説明
イ 意見交換（7分）
ウ 1人を除きテーブルを移動する。
エ 意見交換（情報共有）（7分）
④ 意見の共有とまとめ（7分）
円滑な連携のために大切なこと
今回の研修をとおして考えたこと
⑤ 全体会（意見の全体での共有）（約5分）
⑥ 校長先生より

2 動画の視聴 （25分）

- ② こども園3園の様子を視聴し、各自の考えを付箋に書く。
・朝の様子
・帰りの様子
・活動の様子
・給食の様子

POINT 幼児期の教育や保育について共通理解を図るため、こども園3園の様子を最初に視聴する。

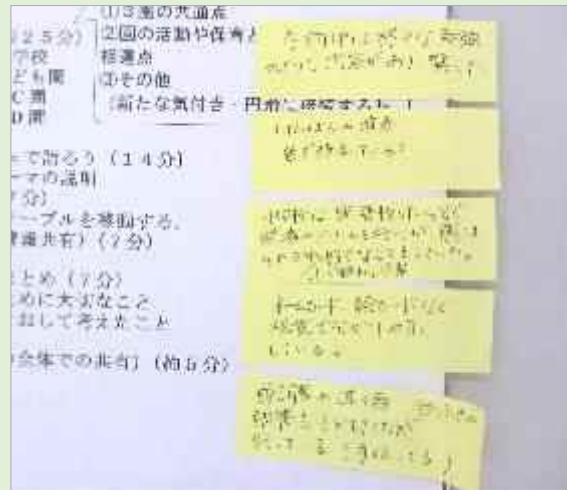


POINT 視点①「3園の共通点」について、付箋に書きながら視聴する。

③ 本校1年生の様子を視聴し、付箋に書く。

・朝の活動の様子

POINT 視点②「園の活動や教育・保育と小学校教育との相違点」について、付箋に書きながら視聴する。



③ ワールドカフェ
で意見交換
(14分)

POINT 流れを把握しやすいように、資料を提示して説明する。

④ 進め方、テーマを説明する。

ワールドカフェで語ろう！

研修時のルール

- ① どんな意見も否定しない。
- ② 「いいな」「なるほど」と思ったらほめる。

ワールドカフェの進め方

【1回目】(7分)

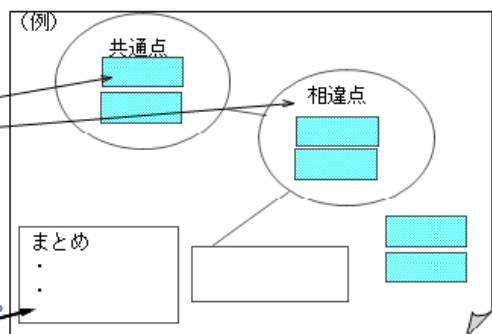
- ① 自己紹介をする。
 - ・今はまわっていること(もの)等
 - ② 動画を観て考えたことを話し合う。
- 〈テーマ〉
- ・3園の実践や子供たちの様子の共通点
 - ・小学校教育との相違点
 - ・円滑な接続のために大切だと思うこと

【2回目】(7分)

- ① メンバーチェンジする。
 - ・テーブルに1人残る
 - ・他のメンバーは被らないように移動
 - ・各テーブル3人～4人になるように
- ② 自己紹介をする。
- ③ 意見交換をする。
 - ・自分たちのテーブルで出た意見を紹介する。
 - ・自分の考えを伝える。

情報交換・まとめ

- ① 最初のテーブルに戻って情報を共有する。
- ② 考えをまとめる。



⑤ テーマについての意見交換をする。(7分)

・リラックスできる雰囲気づくりをして始める。

※誕生月により座席を決める。

※自己紹介を含めたアイスブレイクを行う。

※司会を決めずに「みんなで」語り合うように促す。

POINT 若手も中堅もベテランも自由に意見を言える雰囲気を大切にする。



POINT 一つのテーブルに座るのは4人～5人とする。

⑥ 伝えに行くメンバーを替えて意見交換をする(7分)

・1人はテーブルに残る。

・他は最初のメンバーと被らないように移動する。

④ 各班の情報の共有・まとめ
(7分)

幼児教育で目指す姿を知ることが必要だと思いました。

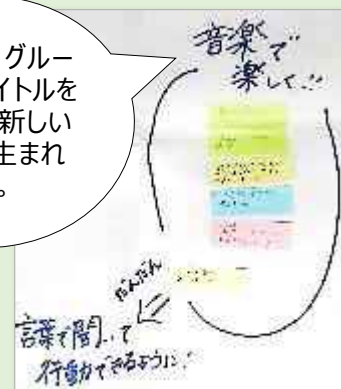
⑦ 似た意見をグルーピングし、意見をまとめる。(7分)

- ・⑥で伝え合ったことについて情報を共有し気付いたことを書き足す。
- ・円滑な接続のために大切だと思うことについてまとめる。

POINT グルーピングしタイトルを付けると、新しい気付きが生まれやすくなる。



どの園も音楽を上手に活用していたと思います。



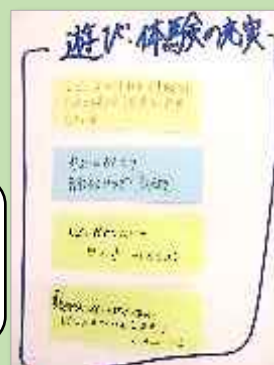
⑤ 全体での情報の共有
(5～6分)

⑧ 各班ごとに、協議内容を発表する。(約1分×5班)

- ※模造紙上でまとめたことをもとに発表する。
- ※班の全員が当事者意識をもつように、発表者はまとめの後で決めるようにする。



円滑な接続のためには、小学校での生活科の学習も大事だと気付きました。



⑥ 振り返り
(3分)

⑨ 学校長からの助言を通して研修の振り返りをさらに深める。

⑩ 接続コーディネーターを中心とした接続プログラムの改善につなげることを確認する。



■ 研修を振り返って ■

- ・動画視聴の際の視点を示すことで、何について話し合うのかが明確になり、テーマに沿った研修を行うことができた。また、動画視聴を通して、低学年担当の経験がない職員も、円滑な接続のために大切なことを具体的に考えることができた。
- ・最初の話合いのテーブルに戻って他班で聞いてきた情報を共有することで、円滑な接続プログラムの改善に当たり、「各園での共通実践を小学校での活動に生かす」という視点を取り入れる必要があることに気付くことができた。
- ・ワールドカフェの手法を活用することで、若手も中堅も気後れせず自分の考えを伝え合うことができ、笑顔あふれた語り合いをすることができた。また、メンバーチェンジをすることで他班の様々な考えを知り、語り合いの視点や考えに広がりが見られた。
- ・話合いの時間を十分確保するためにも、事前にワールドカフェの進め方についての資料を配付しておくよかった。
- ・次回は、「まとめ」の枠を印刷した模造紙を用意して各班の考えを明確にし、さらに改善につなげられるようにしたい。